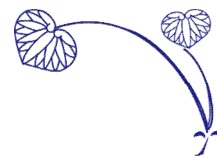


令和3年3月23日

記者発表



紀州徳川 400 年記念出版

一南葵音楽文庫関連書籍3点同時刊行一

平成 28 年度に読売日本交響楽団から、紀州徳川家第 16 代当主頼貞侯にゆかりのある西洋音楽関係資料コレクション「南葵音楽文庫」の寄託を受け、資料の整備・保管、調査研究・公開・普及に取り組んできました。県内外から音楽や紀州徳川家に関心を持つ多くの方々に利用いただき、好評を得ているところです。

このたび、今までの南葵音楽文庫研究における成果として『紀州徳川 400 年南葵音楽文庫案内』『薈庭楽話（わいていがくわ）』『徳川頼貞侯の横顔』の書籍 3 点を刊行することになりました。

この書籍は、一般販売を行うとともに、県内の中学校・高等学校、市町村教育委員会、市町村立図書館・図書室、全国都道府県立図書館、国立国会図書館、音楽学科を設置する大学図書館等にも寄贈し、多くの方にその成果を御覧いただけるようにします。

ぜひ、この 3 点をご覧ください、南葵音楽文庫の世界、西洋音楽や歴史、和歌山の文化をお楽しみください。

～記念出版概要～

- 『紀州徳川 400 年南葵音楽文庫案内』
和歌山県教育委員会/編
徳川宜子/寄稿
美山良夫、林淑姫、佐々木勉、他/執筆
- 『薈庭楽話』
徳川頼貞/著
美山良夫/校註
和歌山県教育委員会/監修
- 『徳川頼貞侯の横顔』
喜多村進/著
林淑姫/校註
和歌山県教育委員会/監修

※詳細は別添資料をご覧ください。



担当課	県立図書館
担当者	坂口・藤田
電話	073-436-9500

いま開く 宝庫の内容と歴史 いま明かされる真実

南葵音楽文庫と徳川頼貞を知る 3冊

紀州徳川400年、南葵音楽文庫の公開を記念し、この世界的な音楽文庫と音楽による貢献に生きた徳川頼貞を紹介する書籍が同時に刊行されました。この3冊には、今までほとんど知られなかった文化の豊穡と先駆的な行動、そして人間味が盛り込まれています。南葵音楽文庫を知り、それを巡る、そこから広がる世界を学び、楽しむことにつながります。



わいていぐわ
蒼庭楽話
ISBN: 978-4-12-005419-5
四六判 384ページ
中央公論新社 3300円

著者徳川頼貞（1892-1954）は、紀州徳川家の第16代当主でした。英国エンブリッジ大学に学び、日本に西洋音楽を根付かせるため音楽堂や音楽図書館を設立しました。プッチーニ、プロコフィエフ、カザルス、コルトー、クライスラー、ジンバリスト、ニキシュ、ブゾーニといった大音楽家たちの交友や秘話がつぎつぎに紹介されます。戦時下の出版統制のため大幅に削除・改変される前の、ごく親しい人のみに配られた「幻の」私家版を復刊しました。読みやすいように、新字新かなにあらためたほか、校註、解説を附しています。

紀州徳川400年 **南葵音楽文庫案内**
ISBN: 978-4-12-005418-1
A4判 オールカラー 96ページ
ベートヴェン自筆楽譜ファクシミリ付き
中央公論新社 3300円

初出版。世界的な音楽コレクションの内容を紹介する最初の書籍。紀州徳川家第16代当主・徳川頼貞が私財を投じて蒐集した音楽文庫の全容を明らかにし、至宝のかずかずを、カラー図版と共に解説しています。また徳川頼貞と音楽のかかわり、父で南葵文庫開設によって日本の図書館史に重要な足跡を残した徳川頼倫についての章をもうけ、紀州徳川家の文化貢献の歩みを簡潔に紹介しました。柳宗悦『手仕事の日本』、南方熊楠「柳田国男宛書簡」、島崎藤村「飯倉附近」、W.M. ヴォーリス「徳川侯爵家の音楽堂」など、関連する文章やその抜萃を、さらに文庫が和歌山県に移管されてから3年あまりの間に新たに収録・収集した資料写真、関連画像を500点以上収めています。
寄稿/執筆: 徳川宜子/泉 健、近藤秀樹、佐々木勉、山東良朗、篠田大基、美山良夫、林 淑 姫

徳川頼貞侯の横顔
ISBN: 978-4-12-005420-4
四六判 204ページ
中央公論新社 2200円

初出版。著者喜多村進（1888-1958）は、徳川頼貞の父・頼倫が設立した南葵文庫、頼貞の南葵音楽図書館の司書として、また側近として身近に頼貞に接していました。田山花袋、島崎藤村に師事私淑した文学者でもあった彼が、素顔の頼貞を描写した肉筆原稿が残されていました。90年ちかく、人知れず残されてきた原稿からは、頼貞の人柄や足跡が、いきいきとたどれます。頼貞が喜多村進にあてた書簡等を付録とし、校註、解説を附しています。